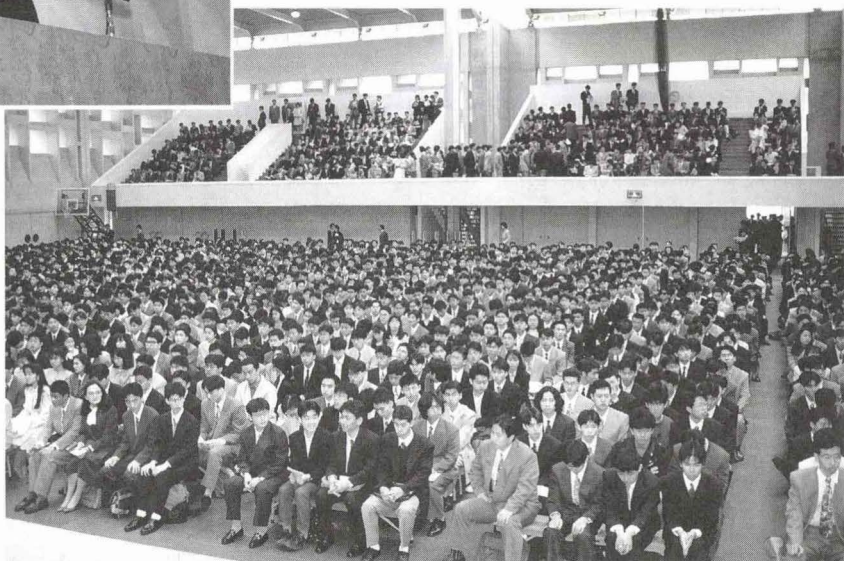


# 京大広報

No. 446

京都大学広報委員会



平成5年度学部入学式 —関連記事本文536ページ—

## 目 次

|                           |     |                           |     |
|---------------------------|-----|---------------------------|-----|
| 学部入学式における総長のことば……………      | 532 | <資料>                      |     |
| 大学院入学式における総長のことば……………     | 534 | 平成4年度京都大学後援会助成金交付者一覧…………… | 541 |
| <大学の動き>                   |     | <保健コーナー>                  |     |
| 名誉教授称号授与式……………            | 535 | 本学教職員の健康状態                |     |
| 平成5年度学部入学式……………           | 536 | —人間ドックのデータより—……………        | 543 |
| 平成5年度大学院入学式……………          | 537 | 計報……………                   | 545 |
| 平成5年度医療技術短期学部入学式……………     | 537 | 日誌……………                   | 545 |
| 部局長の交替等……………              | 537 | <随想>                      |     |
| 京都大学春秋講義(春季講座)の開催……………    | 538 | 博物館から大学へ                  |     |
| <紹介>                      |     | 名誉教授 亀井節夫……………            | 546 |
| 大学院人間・環境学研究科              |     |                           |     |
| 文化・地域環境学専攻の設置と研究科の現況…………… | 539 |                           |     |

## 学部入学式における総長のことば

平成5年4月9日

総長 井村 裕夫

本日ここに元総長、前総長、名誉教授の諸先生、部局長、教職員の方々の御臨席のもと平成5年度入学式を挙行し、3,075名の新入生及び34名の編入者または再入学者、合計3,109名の諸君を京都大学の新しい構成員として迎え入れることができましたことは、誠に喜びとするところであります。志を立てて勉学に励み、合格の榮譽を得られた諸君に心からお祝いを申し上げます。また今日まで新入生諸君を支えて来られた御父兄の皆様にも心からのお慶びを申し上げます。

本年度は新しい学部として総合人間学部が初めて133名の諸君を迎え入れることになりました。それと同時に教養部が廃止され、他の学部も4年一貫（医学部は6年一貫）の教育を始めることとなります。その意味で本年度の新入生は京都大学の歴史の中でも特別な意味をもつ学年であると言えます。それでは何故このような改革がなされたかを簡単に述べてみたいと思います。

昭和24年度に発足した新制大学では、旧制高校の一般教育の3年を2年に、旧制大学の専門教育の3年を2年に短縮する形がとられ、多くの大学で教養部が設けられました。しかし、時代の変化とともに教養部は多数の学生を擁するようになり、一般教育の意義も必ずしも理解されないまま、人間形成の場として十分に機能することが難しくなってきました。こうした問題を解決するため京都大学では1971年から委員会を設けて種々検討し、最終的には総合人間学部を設置するとともに、すべての学部で一貫教育を行うことに決定したのであります。

総合人間学部は、人間と自然、あるいは人間と社会との関係を総合的に理解することを目的として設置されたものであります。21世紀には世界で爆発的な人口増加が起こり人間と環境の関係が大きい問題となります。また国際的な交流が活発になるとともに、異なる文化、異なる宗教を持つ人々との摩擦も大きくなります。こうしたことを考えますと総合人間学部は21世紀を視野に入れたはなはだ野心的な学部ということになります。まだ設備、教育・研究態勢などの面では不備な点もありますが、草創期には自由で闊達な雰囲気があります。最初の入学生諸君はこの新しい領域の開拓者になってほしいと願っています。

このように申しますと、すべての学問は人間のためのものではないかと反論が出るでしょう。たしかにその通りであります。であるからこそすべての学部で教養教育が必要になります。本年度から4年（6年）一貫教育になりますが、これは専門教育の時間を増やすためではありません。教養教育と専門教育を時間的に切り離さないで、並行的に行っていくものであります。教養教育は個人を全体として幅広く開発することを目的としています。理科系の諸君も歴史や哲学や心理学を通じ人間のこと、世界のことを学んでほしいと思います。また文科系の諸君も自然のことを知り、数量の処理能力を身につけてほしいと願っています。もちろん外国語は、これは学問をするためにも、また国際化時代を生きるためにも必要です。それが教養教育の目的であります。新しい4年（6年）一貫教育を受ける諸君は、ゆたかな教養を身につけるよう広く様々な問題に関心を持って下さい。教養教育から得た成果は、すぐにはわかりません。しかし社会へ出て年をとり、様々な問題に遭遇して、教養教育の重要性を初めて理解することができます。とくに現在のような技術革新の激しい時代には、学校で学んだ専門の学問はすぐ古くなってしまいます。そうした時にこそ広い基礎知識が役立つわけです。

今日までの諸君は与えられたものを学びとり、ひたすら記憶して無事入学試験を突破しました。自分で考える時間は少なかったのではないかと思います。大学でも講義を聞き暗記しなければならないところもありますが、今までよりは精神的な余裕がきましょう。教えられたことを鵜呑みにせず、疑問を持ち、自ら考えて解決をしていく習慣を身につけてほしいと思います。それは言い換えれば学問をする



方法を学んでほしいと言うことです。

昨年5月、私は京都大学と学術交流の協定を結んでいるオックスフォード大学を訪問する機会がありました。同大学の Southwood 学長の部屋はオックスフォード大学の中でも古い歴史と伝統をもつマートン・カレッジにありました。このカレッジの図書室はオックスフォード大学の中でも最も古いものですが、私は血液循環を発見した William Harvey の『動物における心臓と血液との運動についての解剖学的研究』という本と、彼が座って勉強した机を見てイギリスの学問の長い伝統に強い感銘を受けました。Harvey は暫くこのマートン・カレッジの学長 (Warden) をつとめていたわけですから。そこで帰国して Harvey のことを少し調べてみました。Harvey は日本では余り知られていませんが、イギリスには Harvey 協会があり、毎年行われる Harvey 講演の演者に選ばれることは医学界では最高の榮譽の一つになっています。

William Harvey は1578年イギリスのケント州で生まれ、若い頃イタリアのパドヴァに留学し、Girolamo Fabrizio に医学、とくに解剖学を学びました。中世の医学はギリシア・ローマ時代の Aristoteles や Galenos の書物の受け売りで、教授は教壇から Galenos の教科書を読み、職人 (理髪外科医) が解剖して学生に見せるという方法が取られていました。しかし15世紀以降 Leonardo da Vinci や Andreas Vesalius が現われて自ら人体解剖を行い、Galenos の誤りが次々と訂正されてきました。Harvey が師事した Fabrizio は、Vesalius の弟子で講義の嫌いな変わり者でありましたが、Galenos や Vesalius の受け売りはせず自分で研究したものしか教えないことを主義としていました。彼は静脈に逆流を防ぐ弁があることを見出しましたが、これは後に Harvey の研究に役立ちました。また人間のみでなく種々の動物で比較して臓器の機能を研究するという研究法をとっていました。Harvey はそれを学んでイギリスへ帰り、医学の研究を始めました。彼は Fabrizio が行わなかった心臓を研究の対象にとり上げました。ルネッサンス期 Harvey 以前にも血管系の研究はありましたが、ギリシア以来の考え方が踏襲されていました。すなわち血液は肝臓で食物中の栄養から作られ、それが静脈系を通過して全身に運ばれるという考えであります。一方動脈系についてはギリシア時代には肺で取り込まれた精気 (プネウマ) の通る導管という考え方でありましたが、Galenos は動脈にも血液が存在し、これは血液とプネウマが混ざったものと考えていました。そして血液は右の心臓から孔を通過して左の心臓へ移ると考えたのであります。

Harvey はそれまでの学説に様々な点で疑問を持ちました。例えば心臓から送り出される血液の量を計算し、摂取された食物中の液汁では説明できないと考えました。また動脈がプネウマを運ぶとすれば、肺の作用しない胎児ではどうなっているのか疑問に思いました。このような様々な疑問を解くため、彼は Fabrizio にならって動物を用いて観察するという方法を行いました。心臓はとても早く動くので、その運動の理解は大変困難でありましたが、冷血動物や死ぬ前の動物では運動が遅くなり、血液の流れを観察することができました。また Harvey はいろいろの動物で比較研究しましたが、とくに肺のない魚での研究は意義があったようであります。そして最後に Harvey は血液は動脈から静脈へと体内を循環するという原理に到達しました。

Harvey の研究態度は今日の言葉で言えば極めて科学的であったと言えます。それまで信じられていた定説に疑問をもって観察を行いました。そして種々の動物で研究しましたが、単に比較するだけでなくそこから共通の原理、すなわち血液は循環するという原理を見出しました。我々の学ばねばならない学問への科学的な姿勢であります。

京都大学は1897年に創立されましたが、当時の法科大学 (現在の法学部) ではいち早くゼミナール方式を取り入れました。それは教えられた知識の暗記ではなく、自ら問題を見出し、自ら考える教育であったわけであります。それは Harvey の研究態度とも共通するものであります。それ故にこそ京都大学は独創的な研究を生み出し、多くの創造性のある人材を育成できたのであります。諸君も大学ではこのような学問的態度を学んで下さい。

京都大学における諸君の生活が実り多いものであることを祈って私の式辞といたします。

## 大学院入学式における総長のことば

平成5年4月9日

総長 井 村 裕 夫

本日ここに前総長、各研究科長、教職員の御臨席のもと平成5年度大学院入学式を挙行し、修士課程1,425名、博士後期課程642名の秀れた諸君を京都大学大学院に迎えることができましたことは誠に喜びとするところであります。今日までの諸君の努力に対して敬意を表するとともに、心からおめでとうとお慶びを申し上げます。

今日から諸君は大学院において勉強をすることになります。これからの日々が充実した実り多いものであることを何よりもまず祈っています。と言うのもこれからの数年間が諸君の人生にとって最も大きい意味をもつ期間であると考えられるからであります。京都大学の卒業生でノーベル賞を受賞された人が、およそいくつの時にその仕事をされたかを調べてみますと、湯川秀樹先生の間中子理論、福井謙一先生のフロンティア電子（軌道）理論が生まれたのは20歳代、利根川進先生が免疫グロブリン遺伝子の組換えを発見されたのが30歳代であります。そして朝永振一郎先生が朝永の方程式とくり込み理論を発表されたのが40歳をはさんでの数年間であります。数学や理論物理学はとくに若い頭脳を必要とする領域であるということは言えましょう。しかし外国のノーベル賞受賞者を見ても、受賞の対象となった仕事を40歳までにしていることが圧倒的に多いのであります。それはこの年齢が最も柔軟な思考力に富んでいる時期、豊かなイマジネーションを持っている時期だからでありましょう。もちろん自然科学の領域でも40歳以後に大きい仕事をした人もありますが、そういう人も40歳までにその基礎を作っています。人文・社会科学では、学問が大成するまでにより長い時間を必要とする場合もしばしばありますが、基礎作りとして若い時期が極めて重要であることには変わりはありません。

1966年ノーベル医学生理学賞を受賞した Charles B. Huggins も、受賞後ある学会の講演で若い頃が極めて重要であることを述べています。

Huggins は1901年カナダで生まれました。母が関節リウマチを患い早く亡くなりましたので医学に関心を持ち、1925年ハーバード大学医学部を卒業しました。その後創設されたばかりのミシガン大学、次いでシカゴ大学で外科医として大変忙しい日々を過ごしました。シカゴ大学では泌尿器科の担当を命ぜられています。Huggins に大きい転機が訪れたのは、1929年、28歳の時ヨーロッパ留学の機会を与えられた時であります。Huggins は有名な Warburg のすすめによりイギリスの Lister 研究所の Robert Robison の所で勉強することになりました。Robison は有機化学者でブドウ糖を代謝する経路の研究で大きい業績を挙げた人です。Robison は研究の進め方について秀れた見識を持ち、常に何らかの発見をすることを目標としていたと言われていました。

ある日 Huggins が Robison に、“もし机の上に天使からの封筒があって、なかに癌の治療法が書かれているとわかったらどうするか”と尋ねたら、Robison は言下に“私は封筒を開かないで破り捨ててしまう。私自身の考え方以外に興味はないから”と答えたそうであります。このような Robison の影響を強く受けた Huggins は後年“発見こそ我々の仕事である (Discovery is our business)”という言葉を繰り返して述べています。

シカゴ大学に帰った Huggins は生まれ変わったようになって研究に打ち込みました。医学の領域での研究の価値は、その中に含まれている exact science, すなわち化学と物理の量によって決まるという信念で研究をしました。そして前立腺が男性ホルモンで支配されていることを見出し、1941年前立腺癌の患者で精巣を取り除くと癌がよくなることを見出しました。丁度40歳の時でありました。その後 Huggins は前立腺癌のみでなく乳癌についても研究し、癌のホルモン療法の完成に大きく貢献しました。

Huggins は次のように述べています。“18歳から32歳の間は人間のイマジネーションは丁度枯れた林



のようで、少し炎があると火がつく。35歳を超えると想像力の林は水につかってしまって、独創的な仕事をするには遅過ぎる”と。Huggins は年齢と同時に炎が必要なことを述べているのでありましょう。Huggins 自身は Lister の研究態度によって火をつけられたわけです。そして Huggins はシカゴ大学でベンメイ癌研究所を創設し、多数の秀れた研究者を育て上げました。日本人の癌研究者の中にも Huggins によって火をつけられた人がたくさんあります。

それでは創造的な研究をするにはどうしたら良いか、ということですが、Huggins は3つのHを強調しています。それは head, 頭を使うこと, hand, 骨惜しみせず働くこと, heart, 情熱を持つこと、であります。Huggins 自身は70歳まで週7日間働き、暇があれば研究室で実験をしたそうです。彼は学会に出ることをできるだけ控え、いつも学会で旅行している Scientists-in-flight のことを嘆いていました。学問を志す人にとっては自然科学系、人文・社会系を問わず3つの H, head, hand, heart は最も大切であります。

諸君は今日から大学院で勉強をすることになります。京都大学は独創的な研究を発展させてきた大学であり、多数の創造性のある人材を産み出した大学であります。この輝かしい伝統と、多くの秀れた指導者は諸君に必ずや火をつけてくれるのでありましょう。若い時期は柔軟で、情熱に富み、新しい発見をするのに最も適した時です。これからの大学院での生活が諸君の人生にとって大きい飛躍のステップとなることを祈って私の式辞といたします。

<大学の動き>

名誉教授称号授与式

4月6日(火)午前10時30分から、名誉教授称号授与式が、京大会館において挙行された。授与式は、部局長の臨席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長のあいさつ」があって、午前11時5分終了した。

称号を授与された方は次の46名である。(敬称略)



| (氏 名)   | (推 薦 部 局)           | (氏 名)     | (推 薦 部 局)         |
|---------|---------------------|-----------|-------------------|
| 平野 俊二   | (文 学 部)             | 大 橋 保 夫   | (総 合 人 間 学 部)     |
| 山 田 善 一 | (工 学 部)             | 瀬 尾 芙 巳 子 | (経 済 研 究 所)       |
| 荒 井 健   | (人 文 科 学 研 究 所)     | 和 田 茂 彦   | (農 学 部 附 属 演 習 林) |
| 吉 田 陽 一 | (農 学 部)             | 由 良 隆     | (ウ イ ル ス 研 究 所)   |
| 香 西 茂   | (法 学 研 究 科 ・ 法 学 部) | 山 田 淳 三   | (医 学 部)           |
| 丸 山 和 博 | (理 学 部)             | 高 浪 満     | (化 学 研 究 所)       |
| 高 寺 貞 男 | (経 済 学 部)           | 東 村 敏 延   | (工 学 部)           |
| 重 永 昌 二 | (農 学 部)             | 庄 野 達 哉   | (工 学 部)           |
| 堀 了 平   | (医 学 部 附 属 病 院)     | 小 澤 和 恵   | (医 学 部)           |
| 阿 部 照 哉 | (法 学 研 究 科 ・ 法 学 部) | 新 田 博 衛   | (総 合 人 間 学 部)     |
| 岩 井 保   | (農 学 部)             | 巽 和 夫     | (工 学 部)           |
| 竹 中 亨   | (化 学 研 究 所)         | 松 尾 尊 允   | (文 学 部)           |

|                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 町田 勝之輔 (薬学部)   | 岩崎 又衛 (原子エネルギー研究所)      |
| 佐々木 和夫 (医学部)   | 秋 宗秀夫 (ヘリオトロン核融合研究センター) |
| 志岐 常正 (理学部)    | 日高 敏隆 (理学部)             |
| 石川 常雄 (経済学部)   | 横山 寛一 (基礎物理学研究所)        |
| 藤 縄謙三 (文学部)    | 竺 沙雅章 (文学部)             |
| 山 縣弘忠 (農学部)    | 木下 富雄 (総合人間学部)          |
| 池 部晃生 (理学部)    | 長谷川 年光 (総合人間学部)         |
| 岡 照雄 (文学部)     | 蘆津 丈夫 (総合人間学部)          |
| 一色 信彦 (医学部)    | 中村 一 (農学部)              |
| 大西 俊一 (理学部)    | 三河 春樹 (医学部)             |
| 豊田 悦夫 (総合人間学部) | 相良 憲一 (総合人間学部)          |

### 平成5年度学部入学式

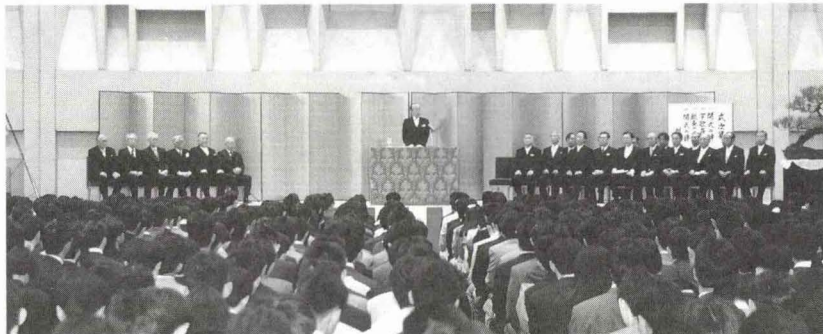
4月9日(金)午前10時から平成5年度学部入学式が名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、学歌斉唱(京都大学音楽部交響楽団及び京都大学合唱団が協力)に続いて、「総長のことば」があり、午前10時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。

| 学 部     | 募集人員  | 入学者数  | 外国人留学生数 |     |    | 第3学年<br>編入学者 | 再入学者 | 計  | 合 計   |
|---------|-------|-------|---------|-----|----|--------------|------|----|-------|
|         |       |       | 国 費     | 私 費 | 計  |              |      |    |       |
| 総合人間学部  | 130   | 133   |         |     |    |              |      |    | 133   |
| 文 学 部   | 240   | 246   |         |     |    | 8            | 1    | 9  | 255   |
| 教 育 学 部 | 70    | 73    |         |     |    | 7            |      | 7  | 80    |
| 法 学 部   | 410   | 418   | 1       |     | 1  | 3            |      | 3  | 422   |
| 経 済 学 部 | 270   | 271   |         | 4   | 4  | 4            |      | 4  | 279   |
| 理 学 部   | 326   | 326   |         |     |    |              |      |    | 326   |
| 医 学 部   | 100   | 102   |         |     |    |              |      |    | 102   |
| 薬 学 部   | 80    | 90    | 1       | 1   | 2  |              |      |    | 92    |
| 工 学 部   | 1,060 | 1,057 | 5       | 14  | 19 | 10           |      | 10 | 1,086 |
| 農 学 部   | 325   | 333   |         |     |    |              | 1    | 1  | 334   |
| 合 計     | 3,011 | 3,030 | 7       | 19  | 26 | 32           | 2    | 34 | 3,109 |

法学部と経済学部には、外国学校出身者のための選考試験による入学者14名と5名とが、それぞれ含まれている。



## 平成5年度大学院入学式

4月9日(金)午後3時から平成5年度大学院入学式が名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、学歌斉唱(京都大学音楽部交響楽団及び京都大学合唱団が協力)に続いて、「総長のことば」があり、午後3時20分に終了した。

今年度の大学院入学及び進学状況は、次のとおりである。

| 修士課程入学数       |       |        |    |       | 博士(後期)課程入学数   |        |    |      |     |     |        |    |     |     |
|---------------|-------|--------|----|-------|---------------|--------|----|------|-----|-----|--------|----|-----|-----|
| 研究科           | 入学数   | 外国人留学生 |    | 合計    | 編入学者<br>(入学者) | 外国人留学生 |    | 再入学者 | 小計  | 進学者 | 外国人留学生 |    | 小計  | 合計  |
|               |       | 国費     | 私費 |       |               | 国費     | 私費 |      |     |     | 国費     | 私費 |     |     |
| 文学研究科         | 55    | 1      | 2  | 58    | 4             | 1      | 3  |      | 8   | 42  | 1      |    | 43  | 51  |
| 教育学研究科        | 13    |        |    | 13    |               |        |    | 1    | 1   | 18  | 1      |    | 19  | 20  |
| 法学研究科         | 60    |        | 6  | 66    | 1             |        |    | 1    | 2   | 5   | 3      | 2  | 10  | 12  |
| 経済学研究科        | 19    | 2      | 8  | 29    | 4             | 1      | 2  |      | 7   | 10  |        | 4  | 14  | 21  |
| 理学研究科         | 206   | 6      | 2  | 214   | 14            | 7      | 2  |      | 23  | 117 |        | 1  | 118 | 141 |
| 医学研究科         |       |        |    |       | 137           | 4      | 8  |      | 149 |     |        |    |     | 149 |
| 薬学研究科         | 53    | 2      |    | 55    | 5             |        | 1  |      | 6   | 13  | 2      | 1  | 16  | 22  |
| 工学研究科         | 628   | 5      | 24 | 657   | 10            | 11     | 13 |      | 34  | 82  | 1      | 2  | 85  | 119 |
| 農学研究科         | 191   | 13     | 3  | 207   | 15            | 7      | 3  |      | 25  | 52  | 6      | 2  | 60  | 85  |
| 人間・環境学<br>研究科 | 122   | 1      | 3  | 126   |               |        |    |      |     | 21  | 1      |    | 22  | 22  |
| 合計            | 1,347 | 30     | 48 | 1,425 | 190           | 31     | 32 | 2    | 255 | 360 | 15     | 12 | 387 | 642 |

平成5年度医療技術短期大学部  
入学式

4月7日(木)午前10時から、平成5年度医療技術短期大学部入学式が、名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに本短期大学部講堂において挙行された。

入学式は、学長式辞、来賓祝辞があつて、午前10時30分終了した。

今年度の新入生数は、看護学科80名、衛生技術学科40名、理学療法学科20名、作業療法学科20名、助産学特別専攻20名の計160名であつた。

(医療技術短期大学部)

## 部 局 長 の 交 替 等

## 原子炉実験所長

西原英晃原子炉実験所教授(原子炉熱特性管理研究部門担当)が、4月2日原子炉実験所長に再任された。任期は平成7年3月31日までである。

## 生態学研究センター長

川那部浩哉生態学研究センター教授(動物生態学研究部門担当)が、4月12日生態学研究センター長に再任された。任期は平成7年4月11日までである。

## 京都大学春秋講義（春季講座）の開講

本学では、財団法人京都大学後援会の協力のもとに、下記のとおり「京都大学春秋講義（春季講座）」を開講する。

本学教職員並びに学生については、各講義とも特別受講枠（無料）30名を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込むこと。

## 記

## ☆月曜講義（5回シリーズ）メインテーマ『経済を考える視点』

| 開 講 日 | 講 師          | テ ー マ                        |
|-------|--------------|------------------------------|
| 5月17日 | 経済学部教授 吉田和男  | 日本経済分析のための経済学                |
| 5月24日 | 農学部教授 村  由直  | 森林・林業・木材の経済問題                |
| 5月31日 | 経済研究所教授 福地崇生 | 途上国開発の諸問題                    |
| 6月7日  | 法学研究科教授 川又良也 | 経済生活関係を規律する法制度—民法・商法と経済法の関係— |
| 6月14日 | 文学部教授 紀平英作   | 経済成長と人間—20世紀の歴史をふり返って—       |

定 員 120名

受 講 料 6,000円（全講義を通しての受講料です。）

会 場 法経第二教室

時 間 午後6時30分～8時30分

申込締切日 4月30日(金)

## ☆水曜講義

| 開 講 日 | 講 師                  | テ ー マ                |
|-------|----------------------|----------------------|
| 5月19日 | 人間・環境学研究科教授 足利健亮     | 安土、伏見、江戸は、なぜそこに作られたか |
| 5月26日 | 教育学部助教授 竹内洋          | 学歴社会の構造と心性           |
| 6月2日  | 人文科学研究科教授 前川和也       | 古代メソポタミアの粘土板記録       |
| 6月9日  | 防災研究所教授 河田恵昭         | 都市防災システム論            |
| 6月16日 | アフリカ地域研究センター助教授 市川光雄 | 生活環境としての熱帯雨林         |

定 員 各講義 120名

受 講 料 各講義 1,200円

会 場 法経第二教室

時 間 午後6時30分～8時30分

申込締切日 4月30日(金)



## ○申込方法

① 月曜講義、水曜講義はそれぞれ別々に往復はがきで下記へ申し込むこと。申込はがきには、住所・氏名・電話番号を記入すること。なお、水曜講義の場合は受講希望日を必ず記入すること。返信はがきにも住所・氏名を記入すること。

② 受講料は、受講決定通知を受領後、指定の口座へ振り込むこと。支払後の受講料は返還しない。

○受講資格は問わない。

○申込み・問合せ先 庶務部研究協力課研究協力掛（内線2041, 2043）

## &lt;紹介&gt;

### 大学院人間・環境学研究科 文化・地域環境学専攻の設置 と研究科の現況

2年前の平成3年4月に発足した人間・環境学研究科は、昨平成4年10月1日、新たに第2の専攻、すなわち文化・地域環境学専攻を増設し、所期の研究・教育体制に一層近づいた形を整えるに至った。

本研究科開設の構想、意義及び設置に至る経過等の概要は、既に『京大広報』No. 411に述べられているので、ここでは主として文化・地域環境学専攻の構成及びそれと既設の人間・環境学専攻（第一専攻）との関係について述べ、合わせて研究科全体の教官・学生・施設等の現況を紹介するにとどめたい。

文化・地域環境学専攻は、4つの基幹講座と、学内の4つの部局、すなわち総合人間学部、人文科学研究所、東南アジア研究センター、アフリカ地域研究センターの教官によって組織された5つの協力講座の、計9講座から成る。そして、この9講座は、構成理念上、以下のように各3講座から成る3つの講座群としてくられ、位置づけられるものと理解していただきたい。

第1は、環境要素物質の物理的・数理解析を行う「環境物性解析論講座」、文化・社会環境の構造と変遷を体系的に分析する「文化・社会環境論講座」、及びこの両者と密接に連携して、環境変化の物質機構、環境と人間の相関、そして自然環境並びに文化・社会環境保全のための人間学的・政策学的方途などについて考究する基幹大講

座の「環境保全発展論講座」から成る基礎研究系講座群である。

第2は、言語の基礎的な構造と社会的・文化的創造活動との相互関係を研究する「文化環境言語基礎論講座」を基幹に、これと密接に連携する2つの協力講座、すなわち日本とヨーロッパという現代文明の核を形成した地域に焦点を定め、その文化の構造と発展の論理を考究する「日本文化環境論講座」及び「ヨーロッパ文化環境論講座」から成る文化環境系講座群である。

第3は、日本・中国や欧米地域に対して、固有の環境に根ざした地域文化・民族文化の構造と歴史の研究、及びそれらの比較を通じて文化と環境の一般理論を構築するために、相互補的に連携して研究・教育活動を行う3つの講座、すなわち「文化人類学講座」、「東南アジア地域研究講座」、「アフリカ地域研究講座」から成る地域環境系講座群である。

要約して言えば、人間・環境学専攻（第一専攻）は、人間と環境の相関を一般理論的に研究することを目指す。それを文化及び地域という具体的環境に適用して研究する場が、文化・地域環境学専攻（第二専攻）の文化環境系及び地域環境系講座群であり、基礎研究系の講座群はそのための通路としての役割をはたすべきものと位置づけられる。人間・環境学研究科は、このような有機的一体性をもった研究・教育組織として構想されたものである。

次に研究科の現況であるが、研究科会議を構成する専任教官（教授及び助教授）は第一専攻で47名、第二専攻で55名、合計102名である。また、教授会構成員すなわち基幹講座の教授・助教授は、平成4年10月より第一専攻協力講座がそろう

て「基幹協力連携講座」として整備されたのに伴う増加があり、第一専攻23名、第二専攻17名、合計40名となっている。学生は第一専攻の1回生が46名、2回生が37名であり、この2回生に対して去る2月8日に修士論文の公聴会も行われ、31名の修士（人間・環境学）学位取得者を送り出した。また、平成5年度から博士後期課程も開設された。本年度は、研究科全体で126名の新入生（修士課程）を迎えたが、内66名は第二専攻の最

初の入学生である。

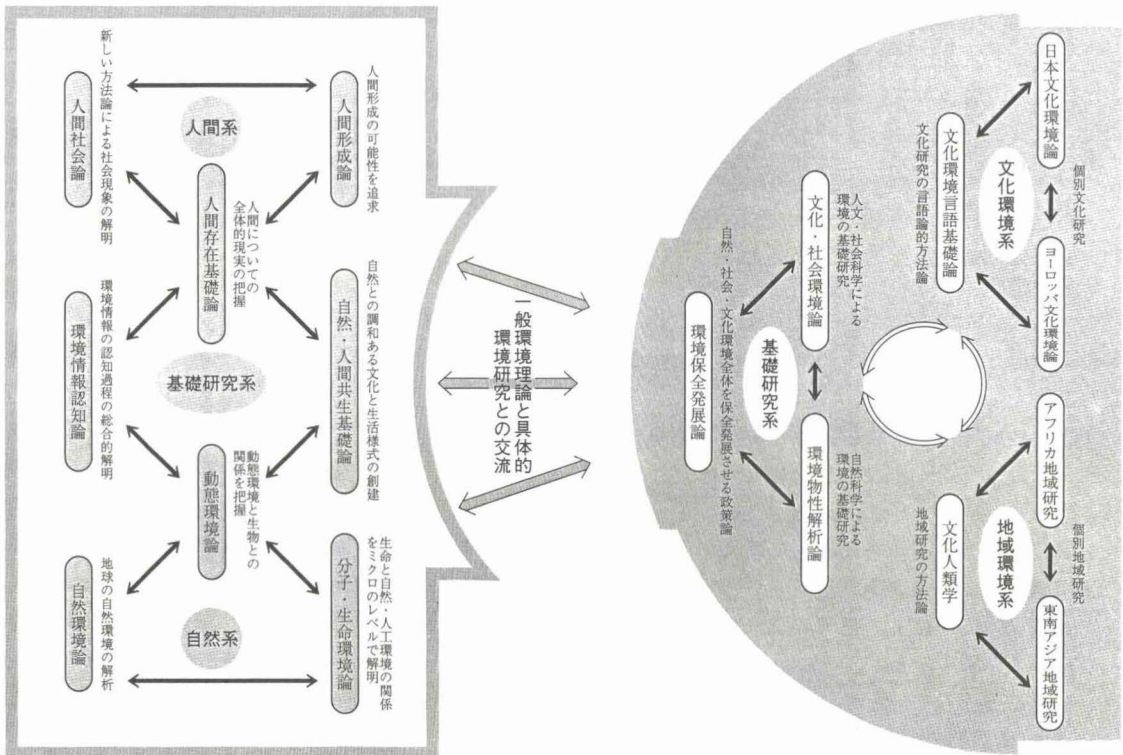
現在のところ本研究科は一切の建物を専有せず、総合人間学部、医学部、楽友会館等のご好意により研究・講義・事務遂行の空間を借用している。目下、旧教養部構内に研究科棟を建設するべく計画中であるが、このことを含め、新設間もない本研究科の運営等について、学内諸部局のご理解とご協力を切望する。

(大学院人間・環境学研究科)

人間・環境学研究科の有機的一体性

人間・環境学専攻（第一専攻）  
(人間・自然環境の一般理論)

文化・地域環境学専攻（第二専攻）  
(文化・地域環境=具体的環境の研究)



## &lt;資料&gt;

## 平成4年度京都大学後援会助成金交付者一覧

京都大学後援会助成事業検討委員会で決定した平成4年度第1類（国際交流事業関係）助成金交付者は、第1類第1種（海外派遣）22名、第2種（海外からの学者招へい）13名、第4種（大学行政上の渡航）5名（のべ数）及び第4種（大学間協定校との交流）3名で、それぞれ次のとおりであった。

## 1. 第1類第1種（海外派遣研究員）

本学教官が専攻する学問分野等について調査研究のため、海外に派遣される場合に、助成金（往復航空賃及び滞在費）を交付するもので、派遣区分は、若手研究者（概ね1年）、6カ月、3カ月、1カ月がある。

| 派遣区分  | 所属部局             | 職名  | 氏名   | 派遣国  | 研究題目  |
|-------|------------------|-----|------|--|---|
| 若手研究者 | 大学院法科<br>大学研究科   | 助教授 | 川濱昇  | アメリカ合衆国                                    | 流通系列に関する競争法上の規制の日米比較                            |
|       | 経済学部             | 助教授 | 根井雅弘 | 連合王国, フランス, オーストラリア, イタリア                  | 現代経済学におけるポストケインズ派アプローチに関する研究                    |
|       | 原子エネルギー<br>研究所   | 助手  | 作花哲夫 | アメリカ合衆国                                    | 液体の光物性・光化学の研究                                   |
| 6カ月   | 総合人間学部           | 教授  | 松田哲  | アメリカ合衆国, スイス, インド                          | 素粒子の対称性と統一理論の研究                                 |
|       | 農学部              | 助手  | 村上章  | アメリカ合衆国, 連合王国                              | Kalman フィルタ理論の構造工学地盤工学への応用に関する研究                |
|       | 木質科学研究所          | 講師  | 田中文男 | アメリカ合衆国, カナダ                               | 植物細胞壁多糖の動的構造と機能                                 |
| 3カ月   | 経済学部             | 教授  | 中居文治 | ドイツ連邦共和国, イタリア, スイス, 連合王国                  | インフレーション会計                                      |
|       | 医学部              | 助手  | 宮木克明 | アメリカ合衆国                                    | 顎関節症及び顎変形症に関する研究                                |
|       | 農学部              | 講師  | 酒井徹郎 | ドイツ連邦共和国                                   | 森林の多角的利用計画における意志決定支援システムに関する研究                  |
|       | 胸部疾患研究所          | 助手  | 水野浩  | アメリカ合衆国                                    | 急性呼吸不全, 特に急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) に対する IVOX による救急治療の臨床 |
| 1カ月   | 文学部              | 教授  | 御牧克己 | ネパール, フランス, ノルウェー                          | 国際チベット学会出席並びにネパールサンسكريット写本の研究調査                |
|       | 教育学部             | 教授  | 和田修二 | オランダ                                       | 教育人間学及び臨床教育人間学の現状と課題                            |
|       | 理学部              | 助教授 | 齋藤政彦 | ドイツ連邦共和国, フランス                             | 代数幾何学及び数論の研究                                    |
|       | 理学部              | 助教授 | 水崎隆雄 | アメリカ合衆国                                    | 量子液体・固体の研究                                      |
|       | 医学部              | 講師  | 今村正之 | アメリカ合衆国                                    | 膵内分泌腫瘍の診断と治療に関する研究                              |
|       | 農学部              | 教授  | 宮崎昭  | ブラジル, アルゼンチン, ベネズエラ, アメリカ合衆国               | 南米における牛肉生産技術に関する研究調査                            |
|       | 大学院人間・環境学<br>研究科 | 教授  | 速水醇一 | ドイツ連邦共和国, オランダ, 連合王国, アイルランド, アメリカ合衆国, カナダ | 物理有機化学, 特に反応論・溶液内相互作用の研究                        |
|       | 医療技術<br>短期大学部    | 教授  | 浅野仁子 | スペイン, スイス, フランス, オランダ, 連合王国                | 老化の細胞生物化学的研究及び膜融合の分子機作                          |
|       | 医療技術<br>短期大学部    | 教授  | 藤原哲司 | 連合王国, イスラエル                                | 上行性脊髄伝導に関する神経生理学的研究                             |
|       | 基礎物理学<br>研究所     | 助手  | 松尾正之 | デンマーク                                      | 高スピン原子核におけるカオスの性質とガンマ線スペクトルの揺らぎ                 |
|       | ウイルス<br>研究所      | 助手  | 丸山光生 | アメリカ合衆国                                    | Runt 関連マウス遺伝子 PEBP2 の細胞種特異的発現調節機構の解析            |
|       | 霊長類<br>研究所       | 助教授 | 木村賛  | ドイツ連邦共和国, フランス, スイス, ベルギー                  | 霊長類四肢骨の特徴について                                   |



## 2. 第1類第2種 (海外からの学者招へい)

海外から学者、研究者を本学に招へいし、学術活動の発展を図るとともに、本学との共同研究の基盤を固めるため、助成金（往復航空賃及び滞在費）を交付するもので、招へい期間は原則として、1年以内（若手研究者）及び1～3カ月（一般）である。

| 区分    | 受入部局       | 招へい学者名               | 国名・所属機関・職名                 | 研究題目                                     |
|-------|------------|----------------------|----------------------------|--|
| 若手研究者 | 医学部        | 胡 長 灯                | 中華人民共和国・同済医科大学・講師          | 色素性乾皮症リンパ芽球様細胞の造腫瘍性獲得の研究                 |
|       | 医学部        | 張 震 華                | 中華人民共和国・遼寧省人民医院・医師         | 悪性神経腫瘍の治療法研修及び共同研究のため                    |
|       | 食糧科学研究所    | Patcharee Tungtrakul | タイ・カセサート大学・研究員             | タイ国の芳香米伝統食品の品質評価並びに品質コントロールに関する基礎及び応用研究  |
| 一般    | 総合人間学部     | Kilroy Thomas        | アイルランド・ゴールウェイ大学・教授         | 演劇を中心とした両国の文化交流                          |
|       | 文学部        | 顔 娟 英                | 台湾・国立台湾大学・副教授              | 中国唐代仏教美術の調査研究                            |
|       | 教育学部       | James Edward Thomas  | 連合王国・ノッティンガム大学・副学長         | 生涯学習推進方策の日英比較研究                          |
|       | 理学部        | 揚 三 田                | 中華人民共和国・華中師範大学・天体物理学研究所所長  | 降着円盤の理論的研究                               |
|       | 理学部        | Roberto Compagnoni   | イタリア・トリノ大学・教授              | 西アルプス地域の超高压変成岩の研究                        |
|       | 医学部        | Murray S.R. Smith    | オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学・上級講師 | 中枢神経系の正常及び異常発生メカニズムに関する比較発生学的並びに分子構築学的研究 |
|       | 工学部        | Hans H. Herda        | アメリカ合衆国・マサチューセッツ大学・教授      | 不連続性岩盤のモデル化                              |
|       | 農学部        | Harald Grip          | スウェーデン・スウェーデン農科大学・講師       | 土壤凍結・融雪への「森林被覆の効果」に関する共同研究               |
|       | 経済研究所      | Shmuel Zamir         | イスラエル・ヘブライ大学・教授            | 情報不完備下での繰返しゲームの理論と経済学への応用                |
|       | 原子エネルギー研究所 | Thomas A. Cahill     | アメリカ合衆国・カリフォルニア大学・教授       | PIXE分析法を利用した大気エアロゾル粒子のキャラクタリゼーション        |

## 3. 第1類第4種 (大学行政上の渡航及び大学間協定校との交流)

総長及び総長が大学行政上特に必要と認めたと者の海外渡航に対し、助成金を交付するものである。

| 所属・職名              | 氏名      | 期間                  | 渡航目的国            | 派遣目的   |
|--------------------|---------|---------------------|------------------|--|
| 総長                 | 井村 裕夫   | 4. 5. 1～4. 5. 10    | 連合王国             | オックスフォード大学との学術交流に関する打合せ及び連合王国における高等教育・研究機関の実情調査            |
| 総長                 | 井村 裕夫   | 4. 8. 28～4. 9. 13   | フランス             | 国際内分泌学会及び医学顧問会議並びにルイ・パスツール大学との学術交流に関する打合せ等                 |
| 法学研究科教授<br>国際交流委員長 | 川 又 良 也 | 4. 9. 21～4. 9. 27   | カナダ              | カナダ・ケベック州の大学との学術交流に関する打合せ                                  |
| 経理部経理課<br>課長補佐     | 益 田 朗   | 4. 11. 23～4. 12. 4  | タイ、シンガポール、インドネシア | 東南アジア諸国における大学運営及び施設に関する実情調査並びに京都大学東南アジア研究センター連絡事務所の管理状況等視察 |
| 庶務部国際交流課<br>第一涉外掛長 | 塚 本 政 雄 | 4. 12. 11～4. 12. 17 | 中華人民共和国          | 京都大学総長に随行し、学術交流に関する打合せ及び高等教育・研究機関の実情調査                     |

大学間協定校等との交流により、学者を受入れる場合に助成金（滞在費又は宿舍費相当額）を交付するものである。

| 受入部局    | 招へい学者名                  | 国名・所属機関・職名      | 研究題目                 |
|---------|-------------------------|-----------------|----------------------|
| 人文科学研究所 | Anne-Marie<br>CHRISTIN  | フランス・パリ第7大学・教授  | 日仏におけるテキストとイメージの比較研究 |
| 理学部     | ILISCA<br>Ernest, André | フランス・パリ第7大学・教授  | 表面磁性                 |
| 経済学部    | Donald Winch            | 連合王国・サセックス大学・教授 | 経済学史に関する研究           |

## <保健コーナー>

### 本学教職員の健康状態

—人間ドックのデータより—

本学教職員を対象とする人間ドックは、共済組合と保健管理センターが協力して、毎年主として7月から9月にかけて行われている。受検対象は35歳以上に限定されているが、受検者数は年度によって多少の増減がある。平成元年から4年度までについていえば、833人から1,170人に増えている。うち女性の受検者は12.7～15.0%を占める。男性受検者を職種別にみると、教官が約65%、事務官が約22%、残りが技官という割合である。一般的な特徴として受検者の高齢化がみられる。ことに女性の受検者の平均年齢が、この4年間で約1歳くらい高くなってきている。

ドックの内容は血液・生化学検査のほかに、喫煙、飲酒、運動、食事などのライフスタイルのアンケートも取られているが、このたびの人間ドックの集計は、血液生化学データに限られたものである。また、本学の人間ドックは希望者のみが受診するものであるから、今回の集計成績については、その点をも考慮する必要がある。

日本人全体の食塩摂取量は、最近の調査によれば12グラム以上であり、全く改善傾向がみられない。食塩摂取量と血圧との間には深い関係があり、10グラム以下に抑えるべく指導されている。世界保健機構（WHO）の指針に従い、最高血圧が160 mmHg以上あるいは最低血圧が95 mmHgを高血圧とすると、図1に示すように本学教職員の高血圧症患者は、男女ともに著しい改善がみられる。

肥満症が、成人病として知られる高血圧症、動脈硬化症、虚血性心疾患、糖尿病、胆石症などの

原因となることは明らかな事実である。肥満が高脂血症と関係があることもわかっている。肥満度を示す指数としては、Broca 指数、Broca-桂変法、Rohler 指数などが用いられてきたが、最近では国際的に BMI (Body Mass Index の略で Quetelet 指数とも呼ばれ、体重 (kg)/身長 (m)<sup>2</sup> で求める) が用いられる。したがって、標準体重は身長 (m)<sup>2</sup> × 22.5～23.0 で求められるが、標準体重の20%を超えるといろいろな病気がおこるようになる。このような人々をハイリスク群と呼んでいる。BMI が27.0以上を肥満とすると、女性の平成1～4年の頻度はそれぞれ4.1, 3.5, 5.7, 0.8%であり、同じく男性では9.0, 9.0, 10.1, 8.7%である。

脂質について日本動脈硬化学会の基準値は、総コレステロール 220 mg/dl 以上、中性脂肪 150 mg/dl 以上、HDL-コレステロール（俗に善玉コレステロールと呼ばれる）40 mg/dl 以下をハイリスク群としている。この基準値をあてはめると、本学教職員女性で実に29～42%以上、男性で42～50%以上が該当することになる。総コレステロールが 240 mg/dl 以上を示す割合は、女性が12.4%から13.5%と増加しているのに反し、男性では19.7%から13.2%に減少している（図2）。高脂血症を示すグループに虚血性心疾患や脂肪肝が高頻度にみられるということが、明らかになっている。また図3に示すように本学の糖尿病予備群は明らかに増加傾向を示している。

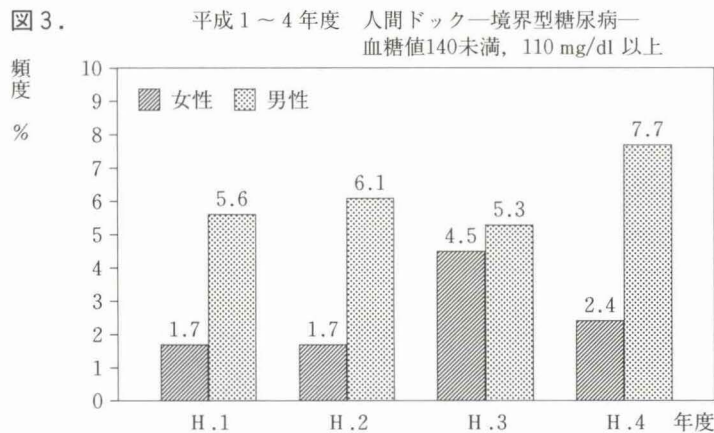
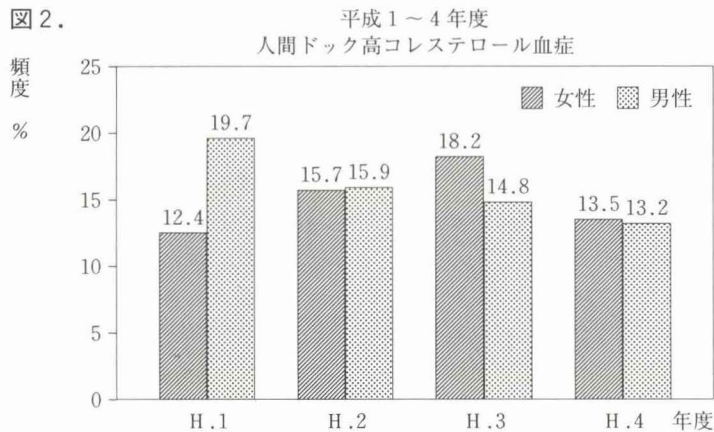
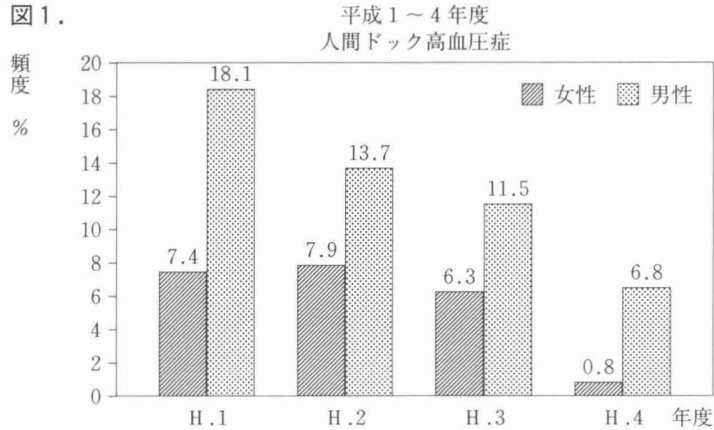
ちなみに日本病院会、臨床予防医学委員会のもとめた平成3年度の人間ドック利用者173万人の調査によれば、68.2%が成人病予備群で、肝機能障害16.2%、肥満症12.1%、高中性脂肪血症9.9%、高コレステロール血症8.9%、高血圧症8.3%となっている。本学教職員の肝機能障害は

平成4年度で男子15.0%，女子4.8%である。

病気予防と治療はともに大切であるが、出来れば病気になる前に予防するのが理想的である。せっかく人間ドックを受けたのであれば、その成績に基づいた対策を速やかにたててほしいものである。食事、運動などライフスタイルの改善はすぐにでも実行できる。そのメニューなどの指導に

ついて保健管理センター、診療所が役にたつことは多いと思うが、何分、スタッフも、設備も十分でなく、日常業務に追われているのが現状である。しかし、健康相談などにはできるだけ対応したいと思っている。

(保健管理センター 森下 玲児)





## 訃報

## 足立正久 理学部助教授

本学理学部助教授 足立正久先生は、3月24日逝去された。享年61。

先生は昭和28年3月名古屋大学理学部数学科を卒業され、同34年3月名古屋大学大学院博士課程単位取得退学後、同年4月同大学理学部助手、同40年同大学教養部助教授、同41年京都大学理学部助教授に就任された。

先生の専門は微分位相幾何学で、同境理論やマ

イクロバンドルを用いた多様体の位相的性質の研究に大きな業績をあげられた。多様体のホモロジーの部分多様体による実現問題、開多様体上の複素構造の研究を行い、さらに、葉層構造の分類空間の位相についても先駆的な研究をされ、微分位相幾何学の発展に大きく寄与された。また、多くの優秀な微分位相幾何学研究者を育成された。

学外においては日本数学会評議員をつとめられ、トポロジー分科会の運営にも多大の貢献をされた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(理学部)

## 日誌

(1993年3月1日～3月31日)

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| 3月1日 保健衛生委員会                            | 18日 建築委員会                |
| 2日 スイス連邦工科大学 Jakob Nüesch 学長他2名来学、総長と懇談 | 23日 修士学位授与式<br>〃 博士学位授与式 |
| 9日 評議会                                  | 24日 卒業式                  |
| 13～14日 入学者選抜学力試験（後期日程試験）                | 26日 附属図書館商議会             |
| 15日 放射性同位元素等管理委員会                       | 30日 評議会                  |



平成4年度卒業式（総合体育館）

